

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	国際医療看護福祉大学校
設置者名	学校法人 国際総合学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	言語聴覚士科	夜・通信	42 単位	9 単位	
	臨床工学技士科	夜・通信	42 単位	9 単位	
	救急救命士科	夜・通信	28 単位	6 単位	
	看護学科	夜・通信	78 単位	9 単位	
教育・社会福祉専門課程	介護福祉学科	夜・通信	360 時間	160 時間	

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

(i-med) https://fsg-college.jp/mushoka/i-m/2021/kamoku2021.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	国際医療看護福祉大学校
設置者名	学校法人 国際総合学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

(i-med) https://fsg-college.jp/mushoka/i-m/2021/riji2021.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	2019年6月1日 ～2023年5月31日	教育統括的観点
非常勤	大学教授	2019年6月1日 ～2023年5月31日	教育統括的観点
非常勤	団体職員	2020年3月31日 ～2023年5月31日	政策的観点
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	国際医療看護福祉大学校
設置者名	学校法人国際総合学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>授業については、厚生労働省に提出・承認を得ているカリキュラムに沿って運営している。授業担当者については学科長会および教務部会にて割りあての確認をおこなっている。</p> <p>毎年2月にシラバスの共通フォーマットを教員に配布したうえで作成を依頼、3月に提出された各科目のシラバスの内容を学科ごとに精査・確認し、教務部長、学校長の承認を得ている。学生に対しては、4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布して説明する機会を設けている。</p>	
授業計画書の公表方法	www.fsg-college.jp/mushoka/i-m/sb/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>学修成果の評価については、科目ごとの試験の実施および実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、課題の提出状況や学習意欲なども加味し、100点満点で評価している。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格とする。</p> <p>なお、試験の受験資格は、科目ごとに実施したすべての授業に対して2/3以上の出席した者に限られる。また、期末試験に不合格となった者には再試験の機会を与える。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績評価においては、客観的指標を設定するために、授業科目ごとの成績評価を100点満点に換算した上で取得点数の平均を求める仕組みを導入している。</p> <p>各学生の平均得点と相対順位を把握する成績評価方法は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科単位を基本として全学生が履修した科目の総得点から平均を求め、「成績一覧表」により学年毎の順位を求める。 ・学生の平均得点と相対順位をもとにした「得点分布表」により、学科学年ごとの成績の分布状況を把握する。 <p>この成績評価方法は半期ごとの集計も可能な方法となっており、「前期」、「後期」、「通年」の成績分布が把握可能な方法である。</p> <p>成績評価の実施については、これらの成績評価の方法により学科学年ごとに実施しており、客観的指標の設定については下記 HP にて公開されている。</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>www.fsg-college.jp/mushoka/i-m/seiseki2019.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>すべての科目において2/3以上の出席があり、かつすべての科目試験においてC評価以上の成績を収めた者を、年度末に行われる卒業判定会にて卒業を認定している。</p> <p>なお、卒業認定に関する規定については、下記 HP のみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>www.fsg-college.jp/mushoka/i-m/nintei2019.pdf</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	国際医療看護福祉大学校
設置者名	学校法人国際総合学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://fsg-college.jp/mushoka/fsg/2021/bs2021.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://fsg-college.jp/mushoka/fsg/2021/pl2021.pdf
財産目録	https://fsg-college.jp/mushoka/fsg/2021/zaisan2021.pdf
事業報告書	https://fsg-college.jp/mushoka/fsg/2021/jigyohokoku2021.pdf
監事による監査報告（書）	https://fsg-college.jp/mushoka/fsg/2021/kansa2021.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	言語聴覚士科	○	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	176 単位	157 単位	7 単位	12 単位	0 単位	0 単位
			176 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		52人	0人	5人	19人	24人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>授業については、厚生労働省に提出・承認を得ているカリキュラムに沿って実施している。授業担当者については学科長会および教務部会にて割りあての確認をおこなっている。毎年2月にシラバスの共通フォーマットを教員に配布したうえで作成を依頼し、3月に提出された各科目のシラバスの内容を学科ごとに精査・確認し、教務部長、学校長の承認を得ている。学生に対しては、4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布して説明する機会を設けている</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>成績評価については、科目ごとの試験の実施および実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、課題の提出状況や学習意欲なども加味し、100点満点で評価している。評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）の4段階。C以上の評価を合格として単位認定し、D評価の場合は不合格とする。</p> <p>なお、試験は科目ごとに実施したすべての授業に対して2/3以上の出席した者が受験できる。また、期末試験に不合格となった者には再試験の機会を与える。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>すべての科目において2/3以上の出席があり、かつすべての科目試験においてC評価以上の成績を取った者を、年度末に行われる卒業・進級判定会にて卒業・進級を認定している。なお、卒業認定に関する規定についてはHP上や学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>国家試験合格に向けて、カリキュラムの授業以外の対策授業、放課後の補習授業を実施している。また、成績不良の学生には個別フォローを行うなどしている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
30人 (100%)	0人 (0%)	18人 (60.0%)	12人 (40.0%)
（主な就職、業界等） 総合病院、介護業界			
（就職指導内容） 就職研修会の開催、個別履歴書添削、個別面談指導、キャリアカウンセラーの面談、 新卒応援ハローワークの活用			
（主な学修成果（資格・検定等）） ・言語聴覚士国家資格 受験者数 30人 合格者数 17人			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
66人	3人	4.5%
（中途退学の主な理由） 精神的要因、体調不良		
（中退防止・中退者支援のための取組） 新入生保護者対象のオリエンテーションや個別相談会の実施、 スクールカウンセラーとの連携		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	臨床工学技士科	○	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授 業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	105 単位	101 単位	0 単位	4 単位	0 単位	0 単位
			105 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		74人	0人	6人	6人	12人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>授業については、厚生労働省に提出・承認を得ているカリキュラムに沿って実施している。授業担当者については学科長会および教務部会にて割りあての確認をおこなっている。毎年2月にシラバスの共通フォーマットを教員に配布したうえで作成を依頼し、3月に提出された各科目のシラバスの内容を学科ごとに精査・確認し、教務部長、学校長の承認を得ている。学生に対しては、4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布して説明する機会を設けている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>成績評価については、科目ごとの試験の実施および実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、課題の提出状況や学習意欲なども加味し、100点満点で評価している。評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）の4段階。C以上の評価を合格として単位認定し、D評価の場合は不合格とする。</p> <p>なお、試験は科目ごとに実施したすべての授業に対して2/3以上の出席した者が受験できる。また、期末試験に不合格となった者には再試験の機会を与える。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>すべての科目において2/3以上の出席があり、かつすべての科目試験においてC評価以上の成績を取った者を、年度末に行われる卒業・進級判定会にて卒業・進級を認定している。なお、卒業認定に関する規定についてはHP上や学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>国家試験合格に向けて、カリキュラムの授業以外の対策授業、放課後の補習授業を実施している。また、成績不良の学生には個別フォローを行うなどしている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
24人 (100%)	0人 (0%)	20人 (83.3%)	4人 (16.7%)
(主な就職、業界等) 総合病院			
(就職指導内容) 就職研修会の開催、個別履歴書添削、個別面談指導、キャリアカウンセラーの面談、 新卒応援ハローワークの活用			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・臨床工学技士国家資格 受験者数 24人 合格者数 20人			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
76人	6人	7.9%
(中途退学の主な理由) 進路変更、精神的要因		
(中退防止・中退者支援のための取組) 新入生保護者対象のオリエンテーションや個別相談会の実施、 スクールカウンセラーとの連携		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	救急救命士科	○	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授 業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	83 単位	58 単位	0 単位	25 単位	0 単位	0 単位
			83 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		50人	0人	4人	7人	11人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>授業については、厚生労働省に提出・承認を得ているカリキュラムに沿って実施している。授業担当者については学科長会および教務部会にて割りあての確認をおこなっている。毎年2月にシラバスの共通フォーマットを教員に配布したうえで作成を依頼し、3月に提出された各科目のシラバスの内容を学科ごとに精査・確認し、教務部長、学校長の承認を得ている。学生に対しては、4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布して説明する機会を設けている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>成績評価については、科目ごとの試験の実施および実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、課題の提出状況や学習意欲なども加味し、100点満点で評価している。評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）の4段階。C以上の評価を合格として単位認定し、D評価の場合は不合格とする。</p> <p>なお、試験は科目ごとに実施したすべての授業に対して2/3以上の出席した者が受験できる。また、期末試験に不合格となった者には再試験の機会を与える。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>すべての科目において2/3以上の出席があり、かつすべての科目試験においてC評価以上の成績を取った者を、年度末に行われる卒業・進級判定会にて卒業・進級を認定している。なお、卒業認定に関する規定についてはHP上や学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>国家試験合格に向けて、カリキュラムの授業以外の対策授業、放課後の補習授業を実施している。また、成績不良の学生には個別フォローを行うなどしている。さらに、消防官採用試験の受験希望者に対して、教養試験対策授業も実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
23人 （100%）	2人 （8.7%）	21人 （91.3%）	0人 （0%）
（主な就職、業界等） 消防職、その他公務員、総合病院、民間企業			
（就職指導内容） 就職研修会の開催、個別履歴書添削、個別面談指導、キャリアカウンセラーの面談、 新卒応援ハローワークの活用			
（主な学修成果（資格・検定等）） ・救急救命士国家資格 受験者数 23人 合格者数 20人			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
52人	1人	1.9%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 新入生保護者対象のオリエンテーションや個別相談会の実施、 スクールカウンセラーとの連携		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	看護学科		-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	100 単位	77 単位	0 単位	23 単位	0 単位	0 単位
			100 単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	91人	0人	9人	38人	47人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>授業については、厚生労働省に提出・承認を得ているカリキュラムに沿って実施している。授業担当者については学科長会および教務部会にて割りあての確認をおこなっている。毎年2月にシラバスの共通フォーマットを教員に配布したうえで作成を依頼し、3月に提出された各科目のシラバスの内容を学科ごとに精査・確認し、教務部長、学校長の承認を得ている。学生に対しては、4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布して説明する機会を設けている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>成績評価については、科目ごとの試験の実施および実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、課題の提出状況や学習意欲なども加味し、100点満点で評価している。評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）の4段階。C以上の評価を合格として単位認定し、D評価の場合は不合格とする。</p> <p>なお、試験は科目ごとに実施したすべての授業に対して2/3以上の出席した者が受験できる。また、期末試験に不合格となった者には再試験の機会を与える。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>すべての科目において2/3以上の出席があり、かつすべての科目試験においてC評価以上の成績を収めた者を、年度末に行われる卒業・進級判定会にて卒業・進級を認定している。なお、卒業認定に関する規定についてはHP上や学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>国家試験合格に向けて、カリキュラムの授業以外の対策授業、放課後の補習授業を実施している。また、成績不良の学生には個別フォローを行うなどしている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
40人 (100%)	1人 (2.5%)	39人 (97.5%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) 総合病院、クリニック			
(就職指導内容) 就職研修会の開催、個別履歴書添削、個別面談指導、キャリアカウンセラーの面談、 新卒応援ハローワークの活用			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・看護師国家資格 受験者数：40人 合格者数：36人			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
103人	8人	7.8%
(中途退学の主な理由) 進路変更、病気要因		
(中退防止・中退者支援のための取組) 新入生保護者対象のオリエンテーションや個別相談会の実施、 スクールカウンセラーとの連携		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		教育・社会福祉 専門課程	介護福祉学科	○	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授 業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2,062 時間	960 時間	630 時間	472 時間	0 時間	0 時間
			2,062時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		19人	1人	4人	13人	17人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>授業については、厚生労働省に提出・承認を得ているカリキュラムに沿って実施している。授業担当者については学科長会および教務部会にて割りあての確認をおこなっている。毎年2月にシラバスの共通フォーマットを教員に配布したうえで作成を依頼し、3月に提出された各科目のシラバスの内容を学科ごとに精査・確認し、教務部長、学校長の承認を得ている。学生に対しては、4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布して説明する機会を設けている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>成績評価については、科目ごとの試験の実施および実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、課題の提出状況や学習意欲なども加味し、100点満点で評価している。評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）の4段階。C以上の評価を合格として単位認定し、D評価の場合は不合格とする。</p> <p>なお、試験は科目ごとに実施したすべての授業に対して2/3以上の出席した者が受験できる。また、期末試験に不合格となった者には再試験の機会を与える。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>すべての科目において2/3以上の出席があり、かつすべての科目試験においてC評価以上の成績を収めた者を、年度末に行われる卒業・進級判定会にて卒業・進級を認定している。なお、卒業認定に関する規定についてはHP上や学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>国家試験合格に向けて、カリキュラムの授業以外の対策授業、放課後の補習授業を実施している。また、成績不良の学生には個別フォローを行うなどしている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
9人 (100%)	0人 (0%)	8人 (88.9%)	1人 (11.1%)
(主な就職、業界等) 介護福祉施設			
(就職指導内容) 就職研修会の開催、個別履歴書添削、個別面談指導、キャリアカウンセラーの面談、 新卒応援ハローワークの活用			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・介護福祉士国家資格 受験者数9人 合格者数8人			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
17人	1人	5.9%
(中途退学の主な理由) コロナウイルスまん延のため来日できず		
(中退防止・中退者支援のための取組) 新入生保護者対象のオリエンテーションや個別相談会の実施、 スクールカウンセラーとの連携		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
言語聴覚士科	150,000 円	1,120,000 円	180,000 円	その他は施設設備費
臨床工学技士科	150,000 円	1,020,000 円	180,000 円	その他は施設設備費
救急救命士科	150,000 円	1,020,000 円	180,000 円	その他は施設設備費
看護学科	150,000 円	970,000 円	180,000 円	その他は施設設備費
介護福祉学科	150,000 円	720,000 円	180,000 円	その他は施設設備費
修学支援 (任意記載事項)				
<ul style="list-style-type: none"> ・FSG 特待生制度：入学金、前期授業料を免除 ・FSG 自己推薦特待生制度：入学金を免除 ・キャリア支援特待生制度：入学金を免除 ・一人暮らし支援特待生制度：入学金・学費から 20 万円を修業年限間免除 ・進級時特待生制度：進級時学費 10 万円を免除 				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) (i-med) https://fsg-college.jp/mushoka/i-m/2021/jikohyouka2021.pdf		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
学校関係者評価については、文部科学省策定の「専修学校における学校評価ガイドライン」をベースに、任意団体である全国専門学校経営研究会 (加盟校：26 法人 113 校) により協議検討を重ねた「自己点検・評価基準」を主に、点検基準表を策定し自己評価したものを委員として外部から教育・医療・福祉・行政・卒業生から構成された学校関係者評価委員の有識者により学校運営に関する点検・評価に対して意見を伺い学校長が再点検の上、学校運営に反映させる方針とする。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
日本大学工学部	2020 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日	教育 (工学・医学博士)
東北健康福祉株式会社	2020 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日	医療・福祉 (児童発達支援関係者)
総合南東北病院	2020 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日	医療 (病院関係者)
(株) ファーストエマージェンシー	2020 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日	卒業生 (校友会会長)
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) (i-med) https://fsg-college.jp/mushoka/i-m/2021/hyouka2021.pdf		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

<http://www.i-medical.jp>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	国際医療看護福祉大学校
設置者名	学校法人国際総合学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		42人	42人	44人
内訳	第Ⅰ区分	18人	19人	
	第Ⅱ区分	15人	15人	
	第Ⅲ区分	-	-	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				44人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	-	0人	-
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-	0人	-
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下）	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人
計	-	0人	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑つて認定の効力を失つた者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	0人	0人	0人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。